

いゝとか、勉強しやすい、というのが顕著。詳細は、第1分科会での倉田教官の発表で。

永田 (名南工高) 本人以外には判らないような小グループ振り分けのCIAシステムというのは？

高森 本人の答えをコンピューターが受けとって、それに応じて次の指示がヘッドフォンを通して本人にだけ返ってくる方式。課題の詳細は、並列されたそれぞれ異った内容のテレビ画面の一つで与えられる。詳細は第二分科会の方で。

質問者B 中卒者の企業内教育を具体的に。

河内 職業訓練法に基づき、入社3年間を教育期間としている。第1年は寮生活、残り2年は現場で実科をやらせながら時々研修所でも教育。企業内教育は履習ではなく会員の完全な習得が目標。その意味でアナライザーは大いに活用している。

質問者C 企業側としては、中等教育の多様化に応じて、職種別の教育を要望されるか？

河内 高校や大学の卒業生を、スペシャリストとは考えていない。その意味で反対に、基礎的な学科の習得が極めて不十分であることを痛感する。特殊な職種別教育は企業の方に任せて頂けば十分である。

質問者D 諸外国における生涯教育の状況と、わが国としての望ましい在り方。

小堀 (司会者) 生涯教育なる用語は1965年に、UNESCOの成人教育推進国際委員会で始めて出されたものであるが、内容的には近似の、成人教育なる用語は既に1920年代に出されており、ソーンダイクなどを中心に発展させられてきたもので歴史は古い。

望ましい在り方として一口ではむつかしいが、中核となるのは、自ら学習する態度・思考力・創造力などの育成といえよう。

千葉 (岩手大付中) 本校で学力差を考慮したクラス編成を試行されたきっかけは？

高森 昭和35年当時、本校生徒の雰囲気として、生活面に於ても学習面に於ても厳しきの不足の一語に要約される状態であった。これを何とかして指導によって克服しようと、全校的に枝葉の自由から根本の自由へをスローガンとして、民主的集団の育成としての、生徒会およびH.Rの指導に当たってきた。数年にして生活面の厳しきは再建されたが、教科面での学習効率、自己への厳しきのみでは如何ともし難い限界の存在を痛感させられたことによる。

司会 討議は、これから本質に触れ深められようとするところで時間切れとなり、まことに残念であるが、これに続く各分科会で、それぞれ最も関心を持たれるものに出席され、このシンポジウムを、本日の日程全体のintroductionとして、お一人お一人が更に深めて頂くことを期待して終了させて頂きたい。

講演要旨

中等教育を中心とした世界の中の日本教育

国立教育研究所長 平塚 益徳

土曜日の午後で、しかも雨の中をいとわず参加されたことに感謝いたします。

この度尊敬する結城先生よりお招きを受けたことを光栄に思います。題目の中等教育に限らず、日本の教育全般について話したいと思います。

I 第1の柱 現代の世界は教育で湧き立っている

世界の先進国は約20、開発国は約80、中進国は約20。これのどこへ行っても一番大きな問題は教育である。UNESCOに対し開発国群は国家を興すものは教育であると発言し、先進国家は1957年以後教育の改革に着手した。独1959、仏1959、英1956、米1958、伊1958、特に米は1958年9月国家防衛教育法を打出し着手した。英の教育白書の内容は技術教育。

II 第2の柱 教育の動向(教育爆発はなぜ起きた)

- (1) **教育の民主化** 1948年世界人権宣言23条教育権あらゆる人間として能力を最高度に発揮させるのが民主主義である。地位、身分、財産、男女、宗教、人種の別なく。女子大亡国論など日本だけである。中学の段階で育英制度を持つべきである。
- (2) **自分の国を良くする教育** ルイセンコは15才までに人間は発達するという。国を興すのは教育である。しかも幼児からしっかり。ソ連の前後3回の5ヶ年計画の根本は教育であると考えた。農業国から工業国へ、そして1957年にソ連の人工衛星が打上った。
- (3) **国際主張** Jacobin nationalism 他国侵略と思想統制これはやがて消えてなくなる。Humanitarian nationalism 独立、自治と平和、産業文化の発達、これは他国のプラスになることを旨とする。UNESCOは教育と科学、文化、マスコミの力により協力して世界平和を作り出すことを目指している。(1946年11月発足)1954年にソ連参加、私は中共をUNESCOに入れることを主張している。
- (4) **人口の激増** 大戦争はなく、生産が上昇、国際協力機構の発達(WHO)、インドは1年に1千万増加。
- (5) **科学技術の発達**

Ⅲ 第3の柱 日本の教育はどういう位置にあるか

(1) ある意味では国際的に極めて高く評価されている。素晴らしい。世界からの日本の教育に対する要望が大きい。

① 明治100年の問題、国内では復古主義、戦争につながるというので反対だった。UNESCOで仏の学者が2年前に明治100年(人類の文化的努力のモデル)のお祝いを全世界でやろうと申し出てUNESCO 125の国全部が賛成した。

② 日本文化を検討する国際会議 UNESCO が日本の東京、京都で開かれた。第1回1969年第2回1970年

③ UNESCOの機関紙クーリエ(12か国語)の1968年11月号が明治100年記念日本特集号を出した。その中で福沢諭吉を紹介、仏教(禅)紹介、日本の教育の長所、短所の紹介(平塚)したのをUNESCOが「日本の教育大勝利の秘訣」とした。高等教育就学率第2位、後期中等教育第2位、前期中等教育第1位、初等教育明治40年来第1位。

(2) ゆゆしい弱点、欠点を持っている

① あまりにも学校教育に重点がおかれてすぎている。高校普通課程が消化できるのは30%、20%は始めからついていけない。50%は自力ではだめ、また、普通の勉強時間ではだめで夜遅くまで学習する、また家庭教師に頼んだりしなければならない。これは高校教育が形式主義であることに原因。有名大学で5月病というのがある。心身疲労20%、目的喪失ノイローゼ20%、ごう慢病20~30%、残り30%が本当に勉強しようとしている。しかし大学生、学力にとぼしい。日本の教育が形だけになった。

Ⅳ これからの教育

1966年 UNESCO がこれからの教育は Lifelong education でなければならないと言い出した。基礎になる家庭教育をしっかりと検討。Recurrent education 回帰教育を考え、いつでも勉強できるように。この面について日本は貧しい。

(1) 家庭でなければならない教育

① 人間の愛情、青少年不良化防止対策を考えなければならない。青少年不良化の最大原因は欠損、貧困家庭でなく幼少時に人間の本当の愛情不足が原因である。

② 自分の欲を抑える、アメリカの frustration theory の誤解が教育の混乱と日本人の不幸をき

たしている。欲求不満を満してやるものと耐え忍ぶことを知らせるものとある。小さい時に自分の欲求を抑えることを学ばなかった人間は不幸である。

③ 他人のことを考える。自己主張が民主主義でない。

それと同様に他人の主張を考えねばならぬ。学生参加が全体にプラスになるためには、Responsibility, Leadership, followorship が必要でこれ等は家庭で教育しなければならぬ。

(2) 学校教育について 学校教育は人類の生んだ最大傑作である(文化の継承と創造)

学校の条件

① 静かな場所

② 専門の場所

③ 標準的基礎的普通教育の場所(子供が不得手でも教えなければならぬ)

④ 総べてを身につける場所(知識、技術、社会性、情操~知的、宗教的いつくしみ、体育保健)

⑤ 一生涯の良き友達にめぐり会える場所

⑥ 良き先生にめぐり会える場所

⑦ 先生が良き生徒にめぐり会える場所(発掘、激励、伸ばす)

(3) 制度が先で人が後ではいけない

一人一人を大切にする。(今は早熟の子供が得をする教育)

① 個人学習の徹底、グループ学習

② 学年制度はずす

③ とび級を考える(現在の教育はできる者がぎせになる)

④ 特殊教育

⑤ 世界的視野を持った良き国民をつくる

⑥ 幼児教育の徹底(生理学的、社会保障の面から)

⑦ 先生を尊重すること(尊敬、生涯勉強)

⑧ 研究をしっかりしよう(時間はかかる)10年位を目途に、教育実験を現場、研究所、行政が一体化して先導的試行を。

⑨ 国民の納得がなければできない

⑩ 前期中等教育15才まで普通教育は観察と指導

⑪ 後期中等教育は選抜制度より選択制度にしよう、多様化が本質、elite(5%)から総ての人が excellence ~ (知能、技能)、世界平和と人類の幸福、一人一人大切に、前期中等教育は普通教育の徹底……何等かの確実な生きてゆく道、特殊教育の完備、中等教育は3年では短かすぎる、生涯教育~家庭、学校、社会の一体化、開発的研究~研究機関と直結、実践的裏付けを。